

## 高知県・高知市病院企業団立高知医療センター

■ 病床数 646床 ■ 職員数 970人

■ DPC/PDPS 2009年4月 ■ 所在地 高知県高知市池2125-1 ■ ホームページ <http://www.khsc.or.jp/>



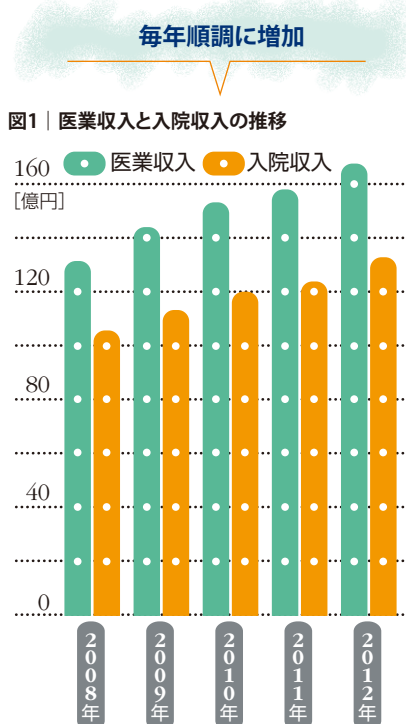
1 正門方向から見た外観 2、3 看護師のほか薬剤師や栄養士も常駐するスタッフステーション 4 小児病棟の壁に飾られた人形で子供の患者さんは自分の居場所を認識する 5 小児病棟にある「ホープさんの部屋」

# 患者情報共有で転院をスムーズに 地域連携で患者受け入れ数を増やす

県立と市立の2つの公立病院を統合して開設された高知県・高知市病院企業団立高知医療センター。機能評価係数Ⅱの高さでも知られているが、地域連携で平均在院日数の短縮や患者数の増加を図っている。

高知県・高知市病院企業団立高知医療センターは、2005年に高知県立中央病院と高知市立市民病院を統合して開設された病院だ。2010年からの公立病院改革で中期計画を立て、病院経営の効率化などで2011年以降単年度黒字となっている(図1)。

病院長の武田明雄氏は、「DPC参加にあたり、当院が求められる診療機能を発揮するためには、これまでの診療スタイルを特に変える必要がないということが当時の病院指導部から出されたため、各診療科の医師たちは特別な意識を持たずに、DPCに参加しました。DPC改定で機能評価係数Ⅱが策定されるまでは、経営的視点から病床稼働率のアップを目的に取り組んでいました」と、往時を振り返る。



2008~2012年にかけて、医業収入、入院収入とも増加している。支出の削減が黒字化の鍵。

だが、昨年からは蓄積してきた各種のDPC情報などの経営データを可視化し、病院の最高決定機関である運営会議(月2回開催)に提出して、検討するスタイルが定着してきた。ITセンター次長兼情報システム室長の町田尚敬氏は、「武田病院長からの指示で、運営会議をはじめ様々な会議にDPC情報を付加し分かりやすくした経営データを病院経営システムや電子カルテシステムから抽出して提出しています」と、積極的に取り組んでいる。

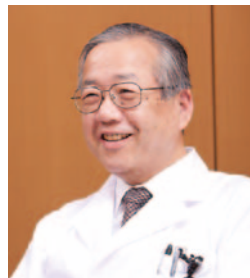
さらに、町田氏はデータから警戒すべき兆候を読み取ると、議題の提案も行う。「機能評価係数Ⅱは、医療の質を測るバロメーターであり、他の医療機関と比較すればまだ高いのですが、DPC対象病院になったときと比較すると落ちてきているので、対策が必要では、と問いかけました」(町田氏)。「会議では、医師に対して、経営的な視点に加えてDPCの指

標を示し『機能評価係数Ⅱは医療の質を評価するもの』と話せば、すんなり検討に入っていきます。新規入院患者数の減少や平均在院日数の増加などは問題点として共有されています」(武田氏)。

## ■ 周産期医療や救急医療を強化

だが、公立病院は経営の安定化ばかりを志向した経営計画を立てられない。「県内で不足している産科や小児医療、また、救急医療といった分野もカバーしなければなりません」(武田氏)。これらは、機能評価係数Ⅱの地域医療係数や救急医療係数の評価を上げるが、運営では難しい側面を伴っている。

例えば、小児医療では新生児特定集中治療室(NICU)を持っている高知県の医療機関は同病院の他に2医療機関しかない。昨年、県内のNICUが満床のため超未熟児の患者さんを県外の医療機関に送らざるを得なかった事例があり、NICUの増床などを行う必要が生じている。



病院長  
武田 明雄 氏



ITセンター次長兼情報システム室長  
町田 尚敬 氏

## ■ カルテ共有を容易にするシステムに変更

とはいえ、医療資源は容易に増やせない。となると、平均在院日数を減らし、急性期治療後速やかに地域の病院や診療所に転院させて、病床回転率を高めなければならない。

「当院には地域医療センターがあり、MSWなどが常駐して、他の医療機関への転院、あるいは逆に受け入れなどの地域連携を担当しています。このセンターの役割はとても重要になってくるでしょう」(武田氏)。

また、患者さんの医療情報を連携する医療機関と共有するシステムも導

入している。「昨年、電子カルテシステムを更新した際に、Web形式での電子カルテの閲覧サービス「くじらネット」を始めました(図2)。「くじらネット」はセキュリティ対策を施したパソコンがあれば閲覧可能なので、紹介患者さんの診療記録を紹介元の医師や転院先の医師に確認しておいていただき、継続した治療に利用していただければ、連携が一層スムーズに行えると思います」(町田氏)。

同病院は本格的に病院情報システムのデータを活用し、今まで以上に地域のニーズに応えていくことにより、機能評価係数Ⅱの評価への反映を図っていこうとしている。

図2 | 電子カルテ閲覧サービス「くじらネット」の概要



高知医療センターを起点とした地域医療ネットワークを構築し、連携医療機関から、診療情報や放射線画像の参照を可能にした。